

企業名： 大成建設

レポート名： 統合レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できない部分が多かった。はじめに、「大成スピリット」として自由闊達・価値創造・伝統進化の三つを挙げており、それに対応する行動指針を定めているが、抽象的かつ、一般に多くの企業や社会が目指すべき姿と似通っており、大成建設が独自に目指している具体的な将来性を感じ取ることはできなかった。

中期経営計画の部分においては、「優位性を確保する」、「確実に利益を上げる体制を構築する」、「強みを生かして」などの言葉が使われているが、具体的な方法や、強みが何なのか明示されておらず、言葉の強さから逆に不信感を持った。一方、数値目標については具体的に挙げられていたので、その根拠となる指標や、理念が語られていると説得力を持ち、読み手により理解されるレポートになると感じた。

大成建設グループが取り組むべき重要課題として、挙げられていたものも一般的に言われている抽象的なこと（持続可能な社会の実現、コンプライアンスの徹底等）ばかりで課題をしっかりと認識しているのか不安になるようなレポートであった。特に、死亡災害件数が0件目標で、昨年度5件あったにもかかわらず具体的な前年度からの改善策について触れられていないことについて疑問を抱いた。(p.32, p.56)

2. この会社の競争優位性が理解できるか

おおむね理解できた。建築事業においては、コロナ禍で業界全体が低迷したものの、デジタル技術やデータ活用によって新築案件の受注競争力を高めていること、組織再編によりリニューアル分野について拡大を図っていること、業務の集約によって生産性を向上させていることが分かった。そのうえ、国際競争力の高い空港分野に力を入れていくことも分かった。また、M&Aを積極的に行っていく姿勢も、レポート全体から読み取れた。土木事業については、国内では、業界全体の低迷に加え、官公庁による国土強靱化対策のインパクトがあまりないため競争優位としては弱いことが分かった。そこで、海外土木事業が重要となり、シンガポールの公共事業やフィリピンのODA案件を中心に競争力を確保していくことが分かった。一方、開発事業やエンジニアリング事業については不明で、特にエンジニアリング事業の「強みを生かして」の部分が具体的に語られることがなく、成長分野である医薬品分野に進出すると述べられ、売上予測も大幅に大きくなっている点は理解できなかった。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

部分的には理解できた。環境分野について業界の先頭を走ろうとする姿勢は、レポート全体から感じ取ることができた。カーボンニュートラル達成に向けたCO2計測システムの導入や、2025年度SBT再認定に向けた目標設定などの取り組みを理解することができた。一方で、推進力の観点で重要となる「技術開発」についての理解があまりできなかった。競争優位性のある技術開発として挙げられていたのは、「大型プロジェクト対応の特殊技術」と「高付加価値化・高品質化に資する技術」の二つで、具体例としても抽象的な単語が並び、本当に技術革新が進んでいるのか、競争優位を維持できるのか疑問が残る内容であった。環境配慮に紙面をたくさん割いていたが、先進的な技術革新を感じる内容はあまりなかった。

全体的に、環境面以外の「見えざる資産」について理解することはあまりできなかった。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

思わない。人材について触れられているのは、マテリアリティ5～7の部分である。前述したが、死亡災害が5件起きている中それに触れないようなレポートが書かれている点で人材・将来世代の軽視を感じる。長時間労働是正・女性活躍などの内容を盛り込んでいるがKPIsがすべて100%で投げやりな印象を受ける上に、人材の価値向上という観点にはほとんど触れられていない。地域社会に向けて奨学金を出していることを知ることができたが、具体的な内容が理解できなかったうえに、内部での成長は望めないと感じた。業界的に人的資本は最低限の労働基準をクリアし供給不足を起こさないこと、企業イメージを損なうことを防ぐということが第一目標にあるように感じた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体的に、リスク認識の低さを感じるようなレポートであったので、メリットや優れている部分だけでなく、リスク認識とその対処法の改善策について、p69,70のような付随的な内容としてでなく、レポート全体を通してもっと紙面を割くべきであると考えた。そうでなければ、レポートというよりはステークホルダー向けの宣伝あるいは広告のようなレポートになりかねないという風に感じた。

競争優位性に関しては、技術革新やこれから進出していく分野についてもっと具体的な記述やイメージが欲しいと思った。サステナブルな内容に割く紙面が大きかったため、それ以外にアピールできる点がないように感じてしまった。

また人的資本の観点では、死亡災害について真剣に受け止めるような文面があれば、不信感を生むことがなかったと思う。そして、人的資本の育成に努めているような事例があるのなら具体的な取り組みの様子などを取り上げるべきであると考えた。KPIsももっと現実的な内容を検討し、目標達成に向けてしっかり取り組んでいることをアピールできるようになるとよいと考えた。